

- 問1 全就業者数に占める65歳以上の就業者の割合が大きくなっている現状について、その背景にある社会的な要因と目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 高度経済成長期のような若年労働力の過剰を解消するため、高齢者の雇用を制限している。 | 2. 公的年金受給開始年齢の引き下げにより、早期に退職する高齢者が増えている。 | 3. 少子高齢化による労働力不足を補うため、定年延長や高齢者の再雇用が推進されている。 | 4. 若年層の失業率を低下させるため、高齢者を優先的に短時間労働へ移行させている。 |
|--|---|---|---|
- 問2 1995年には11.6%であったパートタイム労働者の割合が、2015年には25.4%へと、20年余りで倍以上に上昇した背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 政府が労働基準法を改正し、すべての労働者を正規雇用にすることを義務付けたため | 2. 若年層を中心に、一つの企業に定年まで勤め上げる終身雇用を希望する人が急増したため | 3. 企業が景気の変動に合わせて雇用の調整をやすくし、人件費を抑制しようと考えたため | 4. 年功序列型の賃金体系が広く普及し、長く勤めるほど賃金上がる仕組みが確立されたため |
|---|---|--|---|
- 問3 株式会社は、事業活動によって得られた利潤の一部を、出資者である株主に還元する仕組みを持っています。このように、企業が得た利益を株主に分配することを何と呼びますか。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 税金 | 2. 利子 | 3. 賃金 | 4. 配当 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問4 仕事と余暇の優先度に関する意識調査において、「仕事と私生活のどちらも大切にしたい」と考える人が増えている背景から、企業や国が取り組んでいる施策の目的として最も適切な説明はどれですか。 (2021年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|--|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 年齢や勤続年数に応じて賃金が上昇する仕組みを維持するため | 2. 育児や介護などを行う労働者が、離職せずに働き続けられる環境を整えるため | 3. 労働者が団結して雇用主と対等に交渉する権利を保障するため | 4. 個人の能力や業績を直接給与に反映させる評価制度を導入するため |
|---------------------------------|--|---------------------------------|-----------------------------------|
- 問5 2006年から2016年までの雇用情勢を記した資料によると、日本やOECD加盟国の平均において、2008年から2009年にかけて統計値が右肩上がりに急上昇している項目がある。この「働く意思と能力がありながら職に就けない人の割合」を指す用語として適切なものはどれか。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|------------|--------|
| 1. 有効求人倍率 | 2. 非正規雇用率 | 3. 労働力人口比率 | 4. 失業率 |
|-----------|-----------|------------|--------|
- 問6 主要先進国の労働環境を比較したとき、1985年時点で日本や米国よりも年間労働時間が短く、2020年にかけてさらにその時間を減少させている国があります。このような国々が、仕事と生活の調和を図り、個人の生活を充実させるために重視している考え方を何といいますか。 (2026年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|---------|---------|---------------|
| 1. ワークシェアリング | 2. 終身雇用 | 3. 成果主義 | 4. ワークライフバランス |
|--------------|---------|---------|---------------|
- 問7 現代の日本における起業家の意識について述べた次の文のうち、統計的な傾向として正しいものはどれですか。なお、満足度は「かなり満足」と「やや満足」の合計を指すものとします。 (2024年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 収入に満足している起業家の割合は、全体の8割を超えており、他のどの項目よりも圧倒的に高い。 | 2. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に対する満足度の方が、収入に対する満足度よりも高い数値を示す傾向がある。 | 3. 収入に対する満足度の方が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に対する満足度よりも高い数値を示す傾向がある。 | 4. 起業に関心がない層と比較して、実際に起業した層は全ての項目において満足度が低くなる傾向がある。 |
|--|---|---|--|
- 問8 株式会社の仕組みにおいて、株主が受け取る「配当」についての説明として、その性質を正しく述べているものはどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 銀行から借りた資金に対して、あらかじめ決められた利率で支払うもの | 2. 会社が倒産した際に、預けていた資金が全額返還されるもの | 3. 企業が上げた利潤の一部を、保有する株数に応じて分配するもの | 4. 商品の販売価格から原材料費を差し引いた、売上総利益のこと |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
- 問9 企業の目的や計算方法に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 企業は費用から収入を差し引いた利潤を得ることを目的としている。 | 2. 企業は収入から費用を差し引いた利潤を得ることを目的としている。 | 3. 企業は利潤から費用を差し引いた収入を得ることを目的としている。 | 4. 企業は収入と費用の合計である利潤を得ることを目的としている。 |
|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
- 問10 日本の労働法規において、労働者が人間らしい生活を送ることができるよう、賃金や労働時間などの労働条件の最低基準を定めた法律を何といいますか。 (2024年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|------------|----------|----------|
| 1. 労働組合法 | 2. 労働関係調整法 | 3. 労働基準法 | 4. 最低賃金法 |
|----------|------------|----------|----------|
- 問11 非正規雇用の生涯賃金が正規雇用に比べて低いという実態が、社会全体に及ぼす影響やその背景を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 経済的基盤が不安定になることで、若年層が将来の生活設計を描きにくくなり、少子化や将来的な貧困リスクの増大を招く要因となっている | 2. 企業が能力主義を廃止して全ての労働者を一律の賃金にした結果、労働意欲が低下し、経済成長が停滞する原因となっている | 3. 労働環境の改善によって、非正規雇用が年功序列による昇給を享受できるようになり、所得格差は完全に解消されつつある | 4. 非正規雇用の増加は、全ての労働者の平均賃金を押し上げる効果があり、国民全体の生活水準の向上に寄与している |
|--|---|--|---|
- 問12 家計と企業の経済的なつながりについて、労働と対価の流れを説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 家計が銀行に貯金した際に得られる利子は、家計が企業に労働を提供したことに対する直接的な報酬である。 | 2. 家計が企業に提供した労働の対価として支払われるものは、企業の利益の一部である配当と呼ばれる。 | 3. 企業は家計から労働力を受け取るため、その対価として支払う賃金は、家計が企業から商品を購入した代金と同額でなければならない。 | 4. 家計が企業に労働を提供することで得られる賃金は、家計が消費活動を行うための資金源となる。 |
|--|---|--|---|
- 問13 日本企業のアジア進出に関する意識の変化について、アジア地域を中心に製品の需要が増加すると考える企業の割合が、2007年の約3割から2011年には約5割へと上昇した統計結果があります。この変化が示している状況として、最も適切な記述を選びなさい。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 日本国内での消費が急速に回復したため、海外市場への関心が失われ、技術協力のみ重点が移っている。 | 2. アジア地域が、単に安く製品を作るための拠点から、製品を販売する重要な市場へと変化している。 | 3. アジア諸国の賃金が日本を上回ったため、生産コストを抑制することが不可能になったと判断されている。 | 4. 資源の確保だけが企業の唯一の目的となり、現地の経済状況に関わらず進出企業数が減少している。 |
|--|--|---|--|